

RPJ News

2019年 9月号

特定非営利活動法人(NPO法人)

精神保健福祉交流促進協会 Refresh Project

〒130-0001 東京都墨田区吾妻橋2-17-7-801

毎月1回発行 E-mail ref-pj@mx5.ttcn.ne.jp

発行責任者：志井田美幸/ 長野敏宏/ 仁木守

連絡先 090-1811-7119

ホームページ <http://www2.ttcn.ne.jp/ref-pj/>

内 容

* はじめに

実行委員 中野 良治

* 「企業組合 We need」とは！！

企業組合 We need 代表 小林 園子

* 『愛南町の釣り春夏秋冬』

公益財団法人正光会 訪問看護ステーション御荘 重見 健作

* はじめに

実行委員 中野 良治

今月9月号は御荘担当です。テーマは「社会的企業」とさせていただきました。実は9月から高知リハビリテーション専門職大学の作業療学科の中で「社会的企業論」の講義を当地の田上作業療法士と分担で担当させていただくことになりました。講義が近づき焦って社会的企業(ソーシャル・エンタープライズ)に関する本をたくさん読みました。人生で一番本を読みました…。その中で色々と御荘での活動も振り返りながら考えることができ、納得したこと発見したことも多く自分自身が勉強させられることが多い今日この頃です。

社会的企業とは簡略して言うと、「社会的課題をビジネスの手法を用いて解決していく会社」です。皆さんもご存じとは思いますが、1970年代イタリアが発祥と言われていました。バザーリア法が制定され、公立の精神科病院は段階的に閉鎖。今まで入院していた精神障害を持った人たちと一緒に仕事を作り、地域で生活していく仕組みができました。それが「社会協同組合」です。「入院」という手段で社会的に排除されてきた精神障害を持った人たちが、「労働」を通じて地域社会への再統合が図られました。

御荘での今までの活動を振り返ってみると、昭和40年代からの平山寮での活動、行政や町民の人たちとの活動、NPOなどのより具体的な事業化など、改めて様々な立場の人たちが排除さない仕組みを作り続けてきたのだと思います。

今回は今年イタリアツアーで一緒させていただいた千葉県企業組合 We need の代表小林園子さんに活動紹介をご依頼させていただきました。

「生きづらさを抱える人たち」と一緒に町やその人々のために事業展開されており、まさに社会的企業と思ったからです。8月には小林さんをはじめ、組合の方々も当地まで足を運んで下さり交流を持たせていただきました。

* 「企業組合 We need」とは！！

企業組合 We need 代表 小林 園子

私たちは、2018年に法人化したばかりの、出来立ての組合です。私たちの特徴は、簡単に言うと、①ソーシャルファームであること、もう一つは②企業組合であることかと思えます。

まず①のソーシャルファームとは、ご存知の方も多いかと思いますが、社会的企業と呼ばれ、一般就労でも福祉的就労でもない「第三の雇用の場」を創出する団体や法人を指します。一般に障がい者や労働市場で不利な立場にある人(ホームレス、シングル マザー、出所受刑者など)に働く場を提供することを目的としています。

次の②企業組合とは。こちらは逆に、知らない人や初めて聞いたという方が多いのではないのでしょうか。企業組合という組織形態はあまり知られていませんが、営利法人と非営利法人の間、中間法人として位置します。実際にそこで働く人同士で出資し、営利の部分は出資配当として働く人たちに還元することができます。また、株式会社のように出資額に比例しない、「一人一票」の議決権を持っていることも特徴です。映画「人生ここにあり！」で描かれているように、バザリア法施行後のイタリアの精神病院で組合が次々に作られていったのがソーシャルファームの起源という説もあり、組合とソーシャルファームの相性抜群！と言っても過言ではない！？かもしれません。

私は10年ほどこの千葉県市川市で支援者として精神的な困難を抱える方の支援をする仕事をしていましたが、支援をされるだけでは人は元気にならないのでは？と感じ、思い切って退職。はじめは全くの手探りで、個人事業からのスタートでした。私がこの事業を始めたいと思ったのは一つ、「働く」ということにこだわりたいという想いが根底にありました。働くことで人は何を得的のでしょうか？そう聞かれたらすぐに思い浮かぶのは「お金」かもしれません。「経験」だったり「仲間」や「生きがい」という方もいるかもしれません。それらもちろん重要です。でも私は、働くことで人が得る大切な要素として、「自己重要感」を考えました。自分がここで必要とされているという感覚、ここにいていいんだという安心感、ここで役に立ちたいという希望が、今日を生きるための糧につながるのではないかと思ったのです。そしてそのためにはどうしても、その仕事が“本物”である、ということが必要でした。施しのためでも居場所を作るための仕事ではなく、その仕事自体が世の中に必要とされているものであることが何より大切に思えたのです(本来、仕事とはそういうものであるはずですね)。またここでいう「働く」は、義務としての労働という意味合いではなく、権利としての勤労として捉えて頂けるといいかもしれません。人には、自分を尊重されながら、自分の得意なことを生かして働く権利があると思うのです。世の中で当たり前になっているルールを守らなければ働くことすらできないというだけではなく、環境の面からまだまだやれることがあるのではないかと感じ、チャレンジしてみようと思ったのがはじまりでした。

今、私たちの主な事業は、地域の便利屋としてお掃除、片付け、遺品整理、草刈り、剪定、買い物代行まで、生活サポート全般を行っています。依頼下さるのはやはり、高齢の方や障害などの生きづらさを抱えた方が多いようです。障害を抱えた方の地域生活を支える後見人さんが、どこに頼んだらいいかわからずに連絡を下さることも多々あります。そこでの一言の「ありがとう」「助かったよ」がどれだけ私たちの励みになるか。日々の業務を通じて、この仕事を頂けることを有難く感じています。

この夏、愛媛県愛南町に視察ツアーに行かせて頂きました。そこで働くことはそのまま地域で生きていくことであり、働くことと生きることが切り離されず当たり前の中にあることを感じさせてくれる、非常に貴重な経験をさせて頂きました。それは、障害や生きづらさにかかわらず、でもそれを無いものとするこ

ない、「共に」ではなく「皆で」生きることが目指している姿の根底にあることも教えられました。

私たちは事業のミッションに「生きづらさを抱えた方が働きやすい仕組みを作る」と掲げています。まだまだ途上であり、壁にぶつかることばかり。でも、世の中の当たり前が少しでも、自分たちも含めて皆が生きやすい暮らしができるよう、前を向いていきたいと思っています。

この度は貴重な機会を頂き、ありがとうございます。イタリアツアーでは、運営スタッフの皆さまからの細かな気配りに本当に助けられました。このご縁を頂けたことに心から感謝いたします。



* 『愛南町の釣り春夏秋冬』

公益財団法人正光会 訪問看護ステーション御荘 重見 健作

いい仕事を続けていくためには仕事を離れリフレッシュすることも必要です。

私たちは釣りクラブに所属しており、病院や診療所、施設等の職員で年間 10 回以上釣行しています。愛南町では年間を通じて楽しめる様々な「釣り」があり、今回は全く仕事とは関係ありませんが、紹介したいと思います。

●春(4月～6月)

- ・鯛が産卵を迎えるこの季節、「桜鯛」と呼ばれとてもきれいな鯛が船釣りで狙えます。また近年では「タイラバ」というルアーフィッシングが人気。平山寮から 20～30 分の海域で 50 センチオーバーも。
- ・梅雨が近づくと「沖磯」(渡船で渡る磯)では、「イサキ」が釣れ始めます。刺身でも焼いても脂がのっており美味です。雨ごとにサイズも良くなり、近年は好調が続いています。
- ・春イカと呼ばれる産卵をひかえたイカの王様「アオリイカ」もターゲットです。堤防から、平山寮からも 1 キロを超える大型のアオリイカが狙えます。

●夏(7月～9月)

- ・この季節は暑くて沖磯での釣りは困難になります。この季節から「ケンサキイカ」釣りの始まりです。愛南町の港から 10 分～30 分の近海で狙え、夕方から出船し、日が落ち集魚灯の漁火がついてからが勝負です。「スッテ」と呼ばれる疑似餌で繊細なアタリを捉え、イカを掛ける釣りです。近年、様々な釣りの中でも爆発的に人気が出ており、愛南町でもケンサキイカ釣りの遊漁船がどんどん増えています。女性や子供でも十分釣りあげることができ、県外からのお客さんも多く、なかなか予約も取れなくなっている状況です。100 杯を超える釣果も期待できますし、とにかく食べて美味しい！

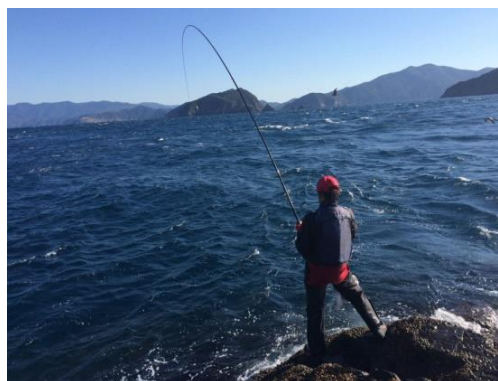
●秋冬(10月～3月)

- ・タチウオ釣りの始まる季節です。堤防や船で沖に出て狙うのが一般的ですが、愛南町で一番よく釣れるのが港から数十メートル先のポイントです。(わかる方はわかると思いますが、稲田さんの牡蠣作業場からすぐそこです。)ドジョウやサンマを餌にしたりルアーで狙うのが一般的ですが、こちらでは「キビナゴ」。朝 3～4 時頃の真っ暗闇に集魚灯を海面に照らすと小魚が集まり、それを狙って太刀魚がやって

きます。「ドラゴン」と呼ばれる指 5 本分サイズも混じります。本当に立って泳いでいるタチウオが見られます。

・アオリイカ釣りに最適の時です。仕事帰りに平山寮へ～夕食はアオリイカの刺身となります！秋は簡単に釣ることができます。

・待ちに待った「沖磯」シーズンの到来です。磯釣り師たちのメインターゲットは「グレ」(メジナ)。愛南町では由良・中泊・武者泊地区に全国の磯釣り師たちが憧れる「一級磯」が点在しています。潮の流れや魚のタナ(魚のいる深さ)の状況を判断し、仕掛けやエサも調整しながら釣りをするテクニカルな釣りです。経験と知識が必要な釣りで、高齢の方々もたくさんおられます。釣れても釣れなくてもそのような磯に渡り釣りができるのは至福の時間です。



名磯「デッパリ」

●年間を通じて

・「ジギング」という釣りでは、「ジグ」という魚の形をした金属の疑似餌に針を付けて魚を釣るルアーフィッシングです。太平洋に面している愛南町。マグロやカツオの漁場である黒潮まで片道約 2 時間半。30 キロを超えるキハダマグロがヒットしてきます。また魚種が豊富に生息する「瀬」が愛南・高知沖には点在しており、カンパチやハタ、高級魚のアカムツ(ノドグロ)やクエが釣れることも。



近場は「なんぐん丸」で

このように愛南町ではどの季節でも様々な釣りが楽しめます。

「なんぐん丸」船もあります。是非、少し疲れた時、リフレッシュしたい時には仕事のことを忘れ愛南町へお越しください。お待ちしております！



ー編集後記ー

今回は、大変お忙しいなか企業組合 We need 代表の小林さんに活動紹介を執筆していただきました。

今、そしてこれから日本でも人口減少、少子高齢化、社会保障... 多くの社会課題があります。

We need のような福祉でも一般企業でもない社会的企業が今後、様々な立場の人たちが社会からこぼれ落ちない仕組みとして重要な役割を果たしていくかもしれません。小林さん素敵な活動紹介をありがとうございました。

そして釣りに行きたいので、皆さん遊びに来てください。お待ちしております！（中野）

特定非営利活動法人 精神保健福祉交流促進協会 TEL090-1811-7119